

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

概 要

部 長：山 本 典 生（耳鼻咽喉科）

部 長：篠 原 尚 吾（頭頸部外科）

総合聴覚センター長：内 藤 泰（総合聴覚センター）

スタッフ：6名

専 攻 医：4名

非常勤医師：2名

専 門 外 来：腫瘍、音声、人工内耳・難聴、耳、めまい

専門医・手術指導医取得のための研修指定学会：日本耳鼻咽喉科学会、日本気管食道科学会、日本頭頸部外科学会、日本内分泌外科学会、日本耳科学会

各種指導医・専門医・認定医数：日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門研修指導医（6名）、日本耳鼻咽喉科学会専門医（6名）、日本気管食道科学会専門医（3名）、日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医・指導医（2名）、日本内分泌外科学会専門医（2名）、日本がん治療認定医機構がん治療認定医（2名）、日本耳科学会認定耳科手術指導医（3名）、日本鼻科学会認定鼻科手術指導医（1名）

2022年の診療及び学術実績

1) 年間手術数：789例

鼓室形成術：67例、人工内耳埋込術：53例、鼻内内視鏡手術：58例、扁桃摘出術：105例、甲状腺・副甲状腺手術：54例、咽喉頭悪性腫瘍手術32例、口腔悪性腫瘍手術：36例、喉頭微細手術：29例、良性唾液腺腫瘍手術：63例、甲状軟骨形成術：5例

2) 学会発表

国際学会：4題（18th Japan-Korea Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery 1題、The 16th meeting of the International Association of Phonosurger 1題、The 4th World Congress on Endoscopic Ear Surgery 2題、）

国内学会：28題（日本耳鼻咽喉科学会総会 7題、日本頭頸部癌学会 1題、日本頭頸部外科学会 4題、日本聴覚医学会 2題、耳鼻咽喉科臨床学会 4題など）

うち、専攻医が筆頭演者のもの：10題

3) 論文発表

英文論文5編（Auris Nasus Larynx、Ear Nose Throat J、Human Genetics、ACTA OTO-LARYNGOLOGICA、IEEE Trans Biomed Eng）

うち、専攻医が筆頭著者：1編

和文論文6編、うち専攻医が筆頭著者：4編

特 徴

当科は耳鼻咽喉科・頭頸部外科において本邦を代表する研修施設であり、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定の専門研修プログラムを運営し、日本気管食道科学会、日本頭頸部外科学会、日本内分泌甲状腺外科学会の研修指定病院、日本耳科学会の耳科手術指導医認可研修施設です。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科の各サブスペシャリティの専門家による専門性の高い診療が行われていることに加えて、当院には高度の救急・救命センターも設置されているため、多彩な耳鼻咽喉科救急症例を多数経験可能です。当科の専門研修プログラムでは、臨床例の診療と臨床カンファレンス、体系的なサブスペシャリティ・シリーズレクチャーを組み合わせしており、専攻医としての在籍期間中に耳鼻咽喉科・頭頸部外科の基本知識、一般的外来診療（診察、検査、外来処置）と基本的手術手技が習得できます。指導に当たるスタッフは6名全員が日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会の専門研修指導医で、うち4名が医学博士を取得しており臨床・研究両面で十分な指導を行える体制です。また、各スタッフは全国学会で教育講演等を多数行い、シンポジストやパネリストを担当し、全国レベルでも指導的立場にあります。

診療では高度難聴、頭頸部腫瘍、中耳疾患、めまい疾患、音声疾患に力を入れ、専門性の高い診断と治療を行っています。手術については、本邦トップレベルの専門的手術と診療科としての必須基本手術をバランス良く研修できます。学術活動では、学会発表を積極的に行い、臨床論文の執筆、投稿を行えるよう指導しています。また当科は、海外との交流として国際学会参加だけでなく、オーストラリア・メルボルン大学耳鼻咽喉科、米国・トマスジェファーソン大学キンメル癌センター、米国・ピッツバーグ大学ヒルマン癌センターへの留学派遣実績があり、常に世界レベルの臨床維持に努めています。

経験症例内容、症例数、指導体制、いずれにおいても、将来の専門医取得に向けて、万全の研修が可能です。

週間スケジュール

		午 前	午 後	夕
月	手 術	めまい外来（隔週）	部長回診 人工内耳・難聴外来	カンファレンス、抄読会、 学 会 予 演 会
火	手 術		頭頸部腫瘍外来	
水	手 術			甲状腺カンファレンス (月1回)
木	手 術		人工内耳・難聴外来 耳外来	放射線治療カンファレンス (隔週)
金	手 術		音声外来	

専門研修プログラム

当院で耳鼻咽喉科・頭頸部外科の専門研修を行うには2つの方法があります。

- ① 当院が基幹病院として公開している専門研修プログラム（神戸中央市民 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 専門研修プログラム）に参加する。

募集定員は3名です。主には、専門研修プログラム4年のうち3年を当院で、あとの1年を京都大学・兵庫県立尼崎総合医療センター・赤穂市民病院のいずれかの病院で研修していただくコースと、京都大学で臨床研修を開始して、日赤和歌山医療センターや大阪赤十字病院など関西の主要病院で研鑽を積み、4年目を当院で研修していただくコースの2種類があります。救急疾患を含めてあらゆる耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患が質・症例数とも豊富であり、充実した研修をしていただけます。

- ② 京都大学の専門研修プログラムに参加する。

当院は京都大学を中心とする専門研修プログラムの連携病院としても登録しており、1年目に京都大学病院で研修後に1-2年間研修に来ていただくことが可能です。ただし、当院を基幹病院とした①のコースで募集した人員で定員が埋まってしまった場合は、大学のプログラム参加者の受け入れに制限を設けますので、当院での研修が難しくなることがあります。

神戸市中央市民 耳鼻咽喉科・頭頸部外科専門研修プログラムの詳細については、当院ホームページをご参照ください。

URL : http://chuo.kcho.jp/recruit/late_resident

見学等問い合わせ先

山本 典生（耳鼻咽喉科）

篠原 尚吾（頭頸部外科）

: kobejibika@kcho.jp